

退任保護司法務大臣感謝状伝達式

退任保護司法務大臣感謝状伝達式



退任保護司（満齢）

令和3年11月30日 場所：広島保護観察所

谷 尾 範 子（中 地 区）	中 曾 マ リ コ（東広島地区）
水 野 京 子（安佐南地区）	上 田 勝 敏（呉 地 区）
重 本 義 之（安佐北地区）	三 谷 誠 一（尾道地区）
山 崎 雅 明（廿日市地区）	中 山 信 弘（三原地区）
藤 渡 一 男（山県地区）	天 野 英 雄（三原地区）
佐々木 寛 治（山県地区）	谷 口 武 子（庄原地区）
光 森 暎 明（東広島地区）	横 山 典 好（福山地区）
二 宮 佐 和 子（東広島地区）	瀬 良 好 史（福山地区）
大 歳 國 彦（東広島地区）	山 本 剛 久（府中地区）
高 橋 哲 次（東広島地区）	

（敬称略、順不同）

更生保護 ひろしま 第781号

昭和27年8月創刊 毎月1回1日発行 定価35円

編 集 「更生保護ひろしま」編集委員会
発 行 広島市中区上八丁堀2-31
広島県保護司会連合会
TEL 082-221-4496
本誌内すべての内容の無断転載および複製を禁じます。

料金後納
郵便

更生保護

ひろしま



2022賀正



本年もよろしくお願いします。

新春特別対談

広島高等検察庁
検事長
畠本 直美

広島県保護司会
連合会 会長
八崎 則男

写真提供
広島市安佐動物公園

目次

●新年のご挨拶 P.2

広島保護観察所長 山田浩司
広島県保護司会連合会会長 八崎則男 ほか
関係団体代表者

●「人と動物が共生する社会」 P.8~9

広島市動物管理センター専門員 渡邊真由美氏

●「クマはなぜ冬眠するのか」 P.10~11

呉地区保護司会 月原廣政氏

●新春特別対談 P.3~7

「互いに一歩踏み込んだ本音が見える関係に」
広島高等検察庁検事長 畠本直美×
広島県保護司会連合会会長 八崎則男

●退任保護司法務大臣感謝状伝達式
..... P.12



広島保護観察所

勤務時間外における緊急連絡先

夜間・休日等に事件関係等で緊急に連絡を
取りたい場合は下記に御連絡願います。

・保護観察事件等 090-8990-3261
・保護司関係 090-2861-7175

新年の御挨拶

広島保護観察所長
山田 浩司



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、日頃から、更生保護の諸活動に対し御尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年、新型コロナウイルス感染者数は増加と減少を繰り返し、各種活動に大きな影響をもたらしましたが、皆様の御理解と御協力、そして様々な工夫により、数多くの制約の中においても「今できることを確実に実施する」ことで、一定の成果を上げることができました。

本年も引き続き、感染拡大防止に留意しつつ、満期釈放者に対する社会復帰対策、保護司の適任者確保、県市町と連携した再犯防止、少年法等改正への対応などを確実に実施してまいります。

皆様の引き続いての御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

架け橋

広島県保護司会連合会 会長
八崎 則男



新年あけましておめでとうございます！

皆様方には新型コロナウイルス感染症拡大防止対応をめぐり、各種会議・広報活動・シンポジウム等の中止、縮小又は延期などにより、過去に例のない更生保護活動にご尽力とご理解を頂いておりますことに対し、心より御礼を申し上げます。

今年は機関紙『更生保護ひろしま』70周年を迎えます。

70周年記念誌発行とより分かりやすく使い勝手の良いホームページ立ち上げを考えております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

謹んで新年の
ご挨拶を申し上げます

更生保護法人広島県更生保護協会
理事長 松藤 研介

広島県更生保護施設連盟
会長 平原 正敏
(更生保護法人 呉清明園理事長)

更生保護法人 ウィズ広島
理事長 山田 勘一

広島県更生保護女性連盟
会長 幟建 末子

広島県BBS連盟
会長 花之木 憲一

広島県協力雇用主会連絡協議会
会長 牧尾 良二

特定非営利活動法人
広島県就労支援事業者機構
会長 苅田 知英

2022年新春特別対談

互いに一歩踏み込んだ 本音が見える関係に

広島高等検察庁
検事長
畹本 直美
うねもと なおみ

広島県保護司会
連合会 会長
八崎 則男
やさき のりお



「人生が豊かになった」といえる保護司人生を

八崎

お忙しい中を対談の機会をいただき、光栄に存じます。きょうはこれからの更生保護について、ご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。

畹本

こちらこそよろしくお願いいたします。

八崎

私は令和2年の6月、広島県保護司会連合会の会長に就任しました。皆さんから「コロナ禍のなか大変ですね」と声を掛けていただくのですが、私自身は、原点に立ち返るにはちょうどいい機会だと受け止めています。

例えば、葬儀にしても家族葬が主流となり、関係の深かった方たちの厳かなもの、本当に心のこもったお見送りになっていますし、神社の祭りはシンプルな神事のみで執り行われています。日本の原風景とでも言いましょうか…。

さまざまな行事や営みがコロナ禍のために規模は縮小し、これまで通りとはいかなくなった。ですが、かえって本質ずばりのものになったように思うのです。「神様からのギフトかな」と、あえて前向きにとらえています。

畹本

なるほど。本当に大切なものを見よ、ということでしょうね。



八崎

実は私、新任保護司の皆さんに必ず披露している話があります。

以前、定期便もなく、二十数家族しかいない離島で保護観察が出たことがあり、主任官も慌てられたそうです。

その島には女性の保護司で更生婦人会(当時の名称)の会員がおられました。主任官が連絡を取ってみると「保護司になって十三年で初の担当です。その方はおそらく自分の教え子でしょう。私が責任をもって担当させていただきます」と涙ながらに言われたそうです。

県内どの地域にも保護司、更生保護女性会員がいて安全・安心な地域づくりのお手伝いをしていること、そして満年齢で退任される保護司が皆さん本当にいい顔をして「人生が豊かになった」と言われるように、いつの日か皆さんも退任する時に「良かったな」と思える保護司人生を全うしていただきたいこと。新任の皆さんには常々、その2点を話しています。

畠本

退任保護司さんがそのように思われているとは、大変うれしく思いますし、感謝申し上げますね。

八崎

昨今はいろいろな出来事があります。保護司の皆さんは矜持と言いますか、確たる思いをお持ちのなか、早期に退任したり、任命を辞退される方もおられます。ですが間違いなく、人生が豊かになるのです。充足率の問題もありますので、官民一体となって人材確保に取り組んでいきたいと思っています。



主な経歴

畠本 直美(うねもと なおみ)
 昭和60年3月 中央大学法学部卒業
 同年10月 司法試験合格
 昭和63年4月 東京地方検察庁 検事
 平成11年7月 法務省 刑事局付
 平成13年3月 司法研修所 教官
 平成16年9月 法務大臣 秘書官事務取扱
 平成18年7月 法務省 大臣官房 司法法制部 参事官
 平成21年1月 法務省 人権擁護局 総務課長
 平成24年12月 東京地方検察庁 総務部長
 平成27年1月 高知地方検察庁 検事正
 平成28年6月 法務省 保護局長
 令和元年7月 最高検察庁 総務部長
 令和2年7月 最高検察庁 公判部長
 令和3年7月 広島高等検察庁検事長

「開かれた検察」を目指して 検察と保護司の交流を

畠本

私は、検察官も検察事務官も、検察職員はもっともっと皆さんと交流を持つべきだと考えています。

検察は犯罪を追及し、起訴して懲役何年などと判決をもらう。そこまではわれわれの仕事です。ですが、対象者が刑務所に入った後にどんな生活をしているのか。刑務作業もしているだろうし、あるいはさまざまなプログラムを受けていることでしょうか。そして仮釈放をもらった後は保護観察です。例えば引受人を探す際に保護司さんたちがどんな努力をしていっているのか、実際の保護観察でどんな悩みをお持ちなのか。



そうした「判決のその後」が分かっていないと、もし再犯で帰ってきた時に、どうしてこういう事になってしまったのかがつかめないのです。ですから、検察はもっと一連の経過を把握しなければなりません。どんな場面で、どここのどんな人がどう関わったかを、今の私たちは知らなすぎるのです。

本当にきちんと検察の仕事をしようと思うのなら、そこをもっともっと知らなければなりません。八崎会長がいつも言われるように、保護司さんは体験を重ね、本当にいろんな思いをされておられる。特に若い検察関係者には、そこを知ってもらいたい。



畠本

検察庁も裁判員裁判を導入した時は「コミュニティ検察」ということで一般の方たちと交流を図ってきました。ですが、このところ、そうした機運が薄らいでいるのは否めません。それでは何も学べなくなる。検察行政を分かってもらい、理解を深めてもらいたい。そのために魅力ある検察、開かれた検察を目指したいと考えています。

八崎

そこは私も強く期待しています。民間から見ると正直言って、役所は仕事が多すぎる。それも誰が見るのか分からない資料のための資料作成とかね。職場の雰囲気にしても、笑顔が少ないのではと感じることがあります。検事長はいろいろなポジションを歴任されておられますが、若い方たちはまさにこれから。今のうちにぜひ、この広島で、人生経験豊富な保護司、更生保護女性会の人たちと交流を持っていただきたいですね。



保護司の活動を通じての思いと対話の大切さにはじまり、現場での検察と保護司の関係など、様々な話題で終始和やかな対談になりました。

発信することで保護司の魅力、やりがい伝える

八崎

広島県保護司会連合会も広報の在り方を変えようと考え、まず月刊の会報誌『更生保護ひろしま』を刷新しました。それまでは官報のようだと言われていました。

ですが、編集委員長以下編集委員を交代させると明言すると「前例がない」「時期尚早」などと反発もありました。こちらは「あなたたちは十年先も二十年先も同じことを言うつもりか。自分が変える。責任も取る」と。

そして令和3年5月号から変わりました。読みやすく、内容もより身近なものとしています。吉川水貴編集委員長には、七十周年記念号の発刊と魅力あるホームページの立ち上げにも取り組んでもらっています。スキルのあるスタッフを集め、誰が見ても魅力あるものにと。

畝本

全面リニューアルですね。

八崎

新任保護司獲得のためにも、保護司の魅力、やりがいを分かってもらいたい。そして発信力を磨き、次の世代にバトンタッチしていく。そのためには批判を恐れず、変えるべきは変えていくつもりでいます。

畝本

とても大切なことですね。

寄り添い、話し相手になることでおせっかいのできる関係性を

八崎

私、七十二になって振り返ると、本当に面白い人生だなと思っています。先ほども申しましたように、保護司が退任する時には「やってよかった」と言って頂けますし…。

畝本

本当にそれってありがたいこと!

八崎

『更生保護ひろしま』に退任保護司の顔写真とともにコメントを掲載しています。そこでは紹介しきれませんが、皆さん本当にいろいろな体験をされています。砂をかむような思いをしたこともあれば、あえてだまされたこともあった。ただ、人を信じて頑張るだけだったと。累犯者であれ、環境を整えてあげれば立ち直ることができるんです。対象者が若い方や特に少年の場合、そのほとんどがきちんと更生しています。社会の一員となり、中には協力雇用主となって保護観察対象者を雇ってくれたりもしています。そして元少年が大人になっていく。そのさまざまなシーンで相談にやって来ます。それこそいろんな事を持ち込んでくるのです。彼らにとって保護司は駆け込み寺、おせっかいを焼くおじさんとおばさんなんですね。



もちろんうまくいかない場合もあります。対象者は加害者であり、被害者でもある。彼らの生活環境を見ますと、親に見捨てられて居場所がなく、反社会的勢力の手先にされている実態が垣間見えたりもする。

それでも、われわれ保護司は、更生させてあげようなどとおごっているつもりはありません。これもご縁ですので、寄り添って人生の先輩としてアドバイスというか、話し相手ですね。

畝本

それが大事ですね。相談したくても問題を抱える少年たちの周りには相談できる大人がいない。孤独なんですね。おせっかいでも一回踏み込んでいくと受け止めてくれる。そうした関係性が大切ですね。

八崎

私たち民間人はほとんどの場合、その地域で暮らし続けますが、役所の人は転勤されます。どうしようもないことですが、それぞれの任地でもっと交流を深めていただきたいと思うのです。肩の力を抜いたざっくばらんで持続可能な懇談会をしましょう。市井のうわさなど、そこで暮らす人の方が詳しいですよ。

畝本

本当にそうですね。特に若い人たちには必要ですね。会議室での意見交換会ではない、本音の交流会をぜひやりましょう!

八崎

よろしくお願いします。本日は貴重なお話をありがとうございました。



主な経歴

八崎 則男(やさきのりお)
昭和24年 広島県豊田郡大崎上島町生まれ
昭和47年 総合商社入社(昭和49年まで)
昭和50年 八崎商店入社(昭和52年まで)
昭和53年 (株)八崎建材の前身 八崎建築資材を創業
(株)八崎建材代表取締役(平成20年まで)
平成20年 (株)ヤサキ創業 代表取締役(平成26年まで)
(株)鏡山牧場(宮崎県)会長就任
平成26年 (株)ヤサキ 会長就任
平成6年 竹原大崎地区保護司
平成14年 同地区会長就任
令和2年 広島県保護司会連合会会長就任



(対談日:2021年11月17日)

人と動物が共生する社会

広島市動物管理センター専門員
渡邊 真由美

幼い頃から、野良猫や野良犬を見つけて、餌をあげたり、家に連れて帰り両親をよく困らせていました。将来を考えるに当たって、あまり迷うことなく、動物に関係する仕事に就きたいと考えるようになっていました。進路を決める時にそれにはどうしたらよいかというところから獣医師を目指していました。

大学卒業後、縁があり広島市に就職することになりましたが、まさか自分が公務員の獣医職に就くとは昔の自分からは想像もしていませんでした。また、恥ずかしながら、公務員に獣医職があることさえ、大学に入るまで知りませんでした。

今は動物管理センターに勤務しておりますが、ここでは野良猫問題、多頭飼育崩壊、高齢者や生活困窮者による飼育放棄等さまざまな問題に直面します。

しかし、どの問題をとってもすべて人が原因なのです。結局動物に関する仕事と言っても、そこにはいつも人が関わっているわけで、人の意識を変えなければさまざまな

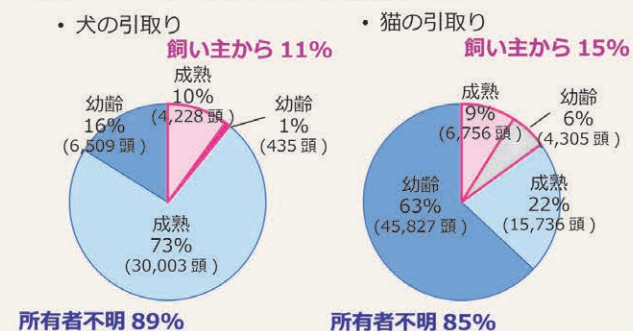


広島市動物管理センター
（広島市中区富士見町）
主な業務は、狂犬病の予防対策、
動物の愛護と管理に関する業務、
動物による人への危害防止、
動物の適正な飼養管理指導など。

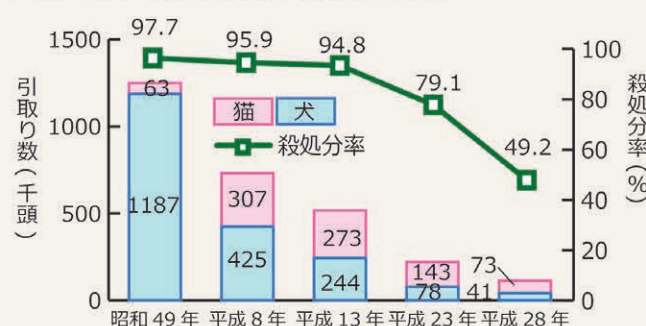
犬と猫の引取りについて（第35条）

動物保護管理法が制定された昭和48年当時は、年間で120万頭を超える犬と猫を引き取り、そのほとんどは殺処分されていました。その後、社会の変遷とともに、動物の適正な飼養管理を向上させるための普及啓発や自治体による返還・譲渡の取組、民間団体等と連携した活動などの効果もあり、引取り数、殺処分数は約10分の1に減っています。飼養放棄、不適切な飼養など、無責任な飼い主等がいる限り、自治体による引取り、やむをえない殺処分はなくなりません。

■全国の犬・猫の引取り数内訳（平成28年度）



■全国の犬・猫の引取り数と殺処分数の推移



出典）環境省自然環境局総務課動物愛護管理室ウェブサイト「動物の愛護と適切な管理」より「知っていますか？動物愛護管理法」
環境省自然環境局総務課動物愛護管理室（平成30年8月発行）https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h3008a/pdf/full.pdf

問題は解決しないことに気づかされます。

もともと内気な性格で、動物とだけ関わっていたいと思って獣医師になりましたが、気が付くと複雑な人間関係の中で仕事をしています。

しかし、そういった中でも、人間の勝手に不幸になった犬・猫が新たに温かい飼い主が決まった時はとても嬉しく感じます。

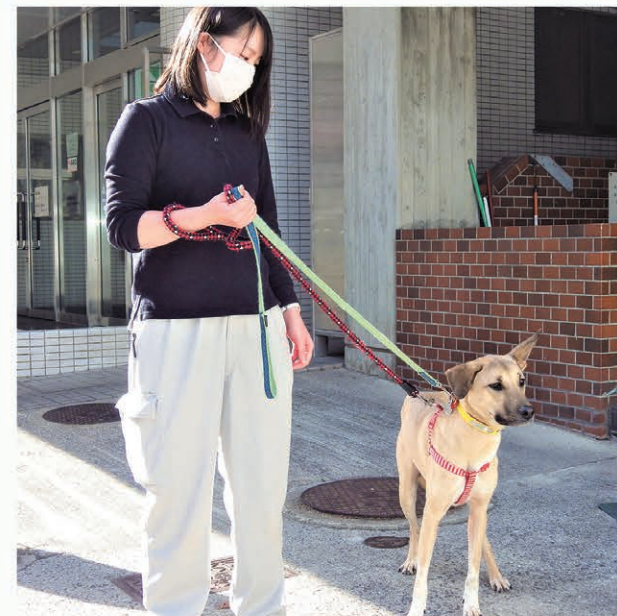
まだまだ日本は動物愛護に関して意識が高いとは言えない状況ですが、動物の持つ癒しの力は絶大です。

しかし、飼い方を間違えると人も動物も不幸にもなってしまう。今後はこういった不幸な人や動物を少しでも減らせるように飼い方教室などを通して、啓発していきたいと考えています。

しかし、行政の方でもそういった人材や環境が整っていない状況です。今後はそのような環境も改善しつつ、できる範囲で今できることをやっていこうと思います。



犬舎は清潔に保たれており、職務に専念される職員皆さまの保護犬等への深い愛情が伝わってきます。



ブルボン君（写真左）が動物管理センターにやってきたのは、小犬だった2年前。親は野犬だったので、人間は苦手なようです。私達が取材で犬舎に入ると、ブルブルと震えていました。

写真撮影のため、玄関前までは職員さんに促されて出てくれましたが、撮影もそこそこに慌てて犬舎に帰って行きました。ブルボン君の後ろ姿に「またね」と声をかけると、大きな澄んだ目で何度も振り返ってくれました。人が怖くて震えていても、迎え入れてくれる誰かを待っているようでした。

犬舎には、迷い犬、捨てられた犬、辛い出来事があったであろう犬たちが、それぞれ名前をつけてもらって、新しい飼い主を待っています。

取材／月原廣政 日隈真理子

保護犬を
介在した
矯正教育

GMaC ジーマック・プログラム（少年院で保護犬の訓練を通じて更生を目指す矯正教育プログラム）

千葉県八街少年院で2014年より始まった動物を介在した矯正教育プログラム。少年たちが、保護犬を訓練することを通して動物福祉と立ち直りの実現をめざす。詳しくはこちらから→



編集委員 月原さんのどうぶつおもしろ百科

クマはなぜ冬眠するのか

呉地区保護司会 月原廣政 氏



新年あけましておめでとうございます。今回は動物おもしろ百科として、「熊」について話します。

日本のツキノワグマ及びヒグマ並びにツキノワグマの原種であるヒマラヤグマとアメリカクロクマは、冬になると岩穴や木の洞などで、春まで4か月ほど冬ごもり（冬眠）をします。

そのために秋の間にうんと食べて肥える必要があります。身体に脂肪を貯蓄し、食料を確保するのが難しい冬の季節を生き延びるため、極力動かないように冬ごもりすることで身体のエネルギー消費を抑え、冬をしのぎます。また、メスのクマは冬眠中にお産をします。秋に蓄えた脂肪を少しずつ使って、飲まず食わずで赤ちゃんを育てます。一方、オスのクマはお産をするメスを守るべきところですが、前後不覚にも眠ってしまっていて、猟師が穴に忍び込んできても気がつかないこともあります。

クマのお産は本能的な行動で、食料、暖房も十分に管理された動物園で暮らすクマでも同様で、お産の始まる1～2週間前は外へ出ず食料もとりません。

クマの生態

一般的に、ツキノワグマは1年半、ヒグマは1年半～2年半の子育てを行う

冬眠・出産

冬眠穴

冬 春 秋 夏

・山菜などの
草本類

若いクマが母グマから離れ大きく移動する。若いクマの出没が増加する

分散期

繁殖期

・草本類
・昆虫類
・果実類

オスがメスを求めて行動圏を広げる。普段クマが生息しない地域で出没することも

飽食期

・堅果類
・果実類

冬眠に備えて、食欲が増す時期です。多くの餌を求めて行動が活発になる

出典) 環境省ホームページより 環境省自然環境局野生生物課
鳥獣保護管理室発行『豊かな森の生活者クマと共存するために』
(<https://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs5/docs5-kuma.pdf>)

冬眠をしないクマもあります。東アジアから南アジアまで広く分布するヒマラヤグマは冬眠をしません。なぜって？それは、暖かい地域では食料も十分にあり冬眠する必要がないのです。

さらに、進化史的に冬ごもりの習性と原因を探ってみると、氷河期に生息した古代のクマは、常に湧き水のある洞窟で生息していたといわれています。日常の活動が終わると洞窟に帰っていたようです。太古の昔よりクマは穴にこもり、厳しい寒さをしのいでいたようです。先人（熊）たちの知恵は現代の冬ごもりとして受け継がれているのかもしれない。

余談ですが、北海道に住む私の友人が、アヤマ釣りの道中、クマと遭遇し約1時間近く不動の姿勢でにらみあい、九死に一生を得た実話があります。

この時クマは何故先に逃げたのかは分かりませんが、友人はクマと目が合った時、目をそらせば絶対にやられると思い、必死で目をそらさなかったことが功を奏したと語っています。

彼のこの行動の真偽は問いませんが、「病治って医者忘れる」のごとく、またアヤマ釣りに行ってなければいいのですが。



画/月原廣政



熊との出合いを避けるために

クマのことを知る

クマの生態、行動などをよく知りましょう。

クマの出没情報に注意する

出没情報があった場所、早朝、夜間は出会う可能性が高くなるので近づかない。

クマに自分の存在を知らせる

クマ鈴など音の出るもので存在を知らせましょう。

クマの居そうな所に注意する

見通しの悪い場所や沢などの狭い所、山とつながっている林や川沿いのやぶも注意しましょう。

最大種はホッキョクグマで、体長約2m50cm、体重約800kg。最小種はマレーグマで約1m50cm、体重約65kgです。視覚や聴覚は優れてはいないが、嗅覚は犬の7倍と優れています。また、優れた運動能力を持っており、木登り、穴掘り、時速40km以上で走り、水泳もできます。最近はクマによる農作物、山林、畜産、人身被害が多発、深刻な問題になっていますが、一方で山林開発等で、クマに限らず動物たちは山を追われていることも、私たち人間は忘れることなく、動物の生態を学び、お互いに共存できる日を願っています。

月原廣政 氏
プロフィール

更生保護
ひろしま編集委員
呉地区保護司
(広島県呉市川尻町出身)

昭和43年 海上自衛隊入隊
護衛艦たかつき乗艦(機関科)
第2術科学学校入校(機関科普通科)
昭和49年 砕氷艦ふじ乗艦(機関ディーゼル員)
(第16次・第17次南極観測支援参加)
平成5年 砕氷艦しらせ乗艦(機関士)
(第35次・第36次南極観測支援参加)
平成14年 海上自衛隊退職